



今回、私達は申し送り廃止の前段階として、リカバリールームの記録を充実させようと試みた。症例は合併症発症に伴い、2回の手術を余儀なくされた89歳の患者で、ナースィングチームを結成して集中強化看護を実施し、回復を目指した。チームは看護計画を立案、記録用紙については看護診断を行った1項目毎に作成・記録をした。結果、看護診断別の記録方式は患者の状態が掴み易く、スタッフの問題意識や看護活動の統一化、並びに観察レベルの向上や記録内容の充実が見受けられ、患者個々の個性を活かした看護を提供する事ができた。

その結果、申し送りを廃止しても看護・治療に支障なく、時間の有効活用ができた。さらに、ベッド訪問に行く機会が多くなり、精神的に余裕を持って接することができるなどのメリットが得られ、患者指導や記録への見直しに結びつけることができた。まだ、発展段階であるが、その結果をここに報告する。